



頂上目前にしてエントリー（Bパーティィ）

## 未丈が岳 丸山スキー場～せいの沢～未丈が岳

高柳

【日時】 2007年4月7日(土)～8日(日) 前夜発1泊2日

【メンバー】 L中村、手嶋、浅井、高柳

4/7 奥只見丸山スキー場からAパーティィとともに進む。リフトを3回乗り継ぐが、我々の進む方向へはどうやら2回で十分だった様だ。実に良い天気。守門・浅草・燧ヶ岳・荒沢岳など山名同定しながら準備をする。男ばかりの8人で、皆軽口も飛び出すくらい上機嫌である。尾根に乗り上げると、いきなりちょっとした岩稜帯。暫くシートラして乗り越す。その後も細い稜線で、トラバースしたり稜線上を進んだり飽きさせない。Co. 1288m PでAパーティィと別れる。日向倉山からの稜線とのジャンクションピークの下りは、雪庇が崩壊しかけていて恐ろしい亀裂が生じている。ここは絶対雪庇でしょ！という、今にも落ちそうな部分を『会長責任』で手嶋さんが先行して進んでくれる。あ〜くわばらくわばら。ちょっと滑ってなんとか無事に稜線に復帰。明日の帰りまで崩壊しないで下さいとお願いして前へ進む。我々の計画は、Co. 1389m辺りからせいの沢下降である。手嶋さんはあと30分くらいで頂上に着きそうだと嘆いている。これはだれかの陰謀に違いないとの仰せである。それでも、滑るとなったら「では行きます」とまたもや会長責任で先行。沢の源頭部のためか小沢が入り組んでいて、斜面が波打っているのを回避しながら滑るしかない。表面10cmの新雪が解けて、少々スラフが生じるものの概して滑りやすい。遠望したときの想像よりも傾斜はなく、全装備でも何とかなる。途中の急斜面に亀裂があり、これを避けていたら、右岸の尾根をAパーティィの面々が登り返してくる。ギャラリーの注目をあびて滑るのもオツなモンです。大黒沢出合まで滑って未丈ヶ岳東稜に乗り上げる。最初の急登でぜいぜいひーひー、残る力を振り絞る。Co. 1280mまで行こう、と中村Lの檜が入るものの、気分のいいブナ樹林帯のCo. 1200mをB Pに決定。風もなくいい一夜でした。

4/8 今日もいい天気である。未丈が岳東稜をCo. 933mまで滑る予定であったので、いよいよ滑り出しと準備していると、にわかには霰が降ってきて視界不良。滑走は断念せざるをえない。登り返しがなくなって内心ほっとしながら、「おーい」と声が聞こえる頂上へ向かう。広い頂上で合流して、最後のビールで乾杯しながら最終パーティィの到着を待つ。頂上で大勢が集中するのは壮観です。帰りの課題であったJ Pの雪庇の乗っ越しは、皆シートラして越える。あとは往路を戻すのみ。Co. 1225mのトラバース地点では、足元の雪崩に緊張しつつ通過。あとは大汗をかきながら丸山スキー場にたどり着く。

ずっと全装備を担いでの行動で疲れましたが、充実した山行でした。

【行程】

4/7 丸山スキー場トップ (8:55)－JP (12:20)－1450mドロップイン地点 (1:33)－せいの沢二俣 (登り返し地点) 900m(14:24-14:42)－1200mBP (15:52)

4/8 BP (6:35)－Co.1280mP (6:48-7:15)－未丈山頂 (8:30-9:48)－JP (10:43)－丸山スキー場トップ (13:33)



左上：かのうき沢右岸尾根に行く

左下：JPからの下り

雪庇に亀裂が入っており恐ろしい

右上：未丈ヶ岳を見上げる